α-7 DIGITAL

J 使用説明書

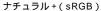
お買い上げありがとうございます。
この製品は、従来からの豊富なミノルタαシリーズ用交換レンズとアクセサリーが利用できるデジタル一眼レフカメラです。世界3大カメラタイトルを受賞したフィルムAF一眼レフカメラ「α-7」の操作性に、弊社デジタルカメラDiMAGE（ディマージュ）シリーズで高い評価をいただいている、独自のCCDシフト方式によるボディ内蔵手ぶれ補正機能を搭載。加えて独自の画像処理技術などにより、本格的な作品作りを目指す方にも満足してお使いいただけます。

ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

カラーモード

詳しくはP.100をご覧ください。

ナチュラル＋（sRGB）

ナチュラルは被写体の持つ自然な質感を重視し、人物その他に適しています。一方ナチュラル＋（ナチュラルプラス）では、ナチュラルよりも締まりのある、質感と透明感のある画像が得られます。風景やマクロ撮影に適しています。

ナチュラル＋（sRGB）

ナチュラル（sRGB）

ゾーン切り替え

詳しくはP.143をご覧ください。

高輝度域あるいは低輝度域の多い被写体で、白とびや黒つぶれをやわらげることができます。

ゾーン切り替え（HIGH）で撮影

通常撮影

目次

撮影・再生の基本知識を説明しています。デジタルカメラを初めてお使いの方はもちろん、すでに使ったことのある方もこの章は一通りお読みください。

露出モードやドライブモードの変更、露出・コントラスト補正など、さまざまな撮影方法について説明しています。必要に応じてお読みください。

各機能の説明（撮影、続き）

各機能の説明（再生） 82

再生時の機能について説明しています。必要に応じてお読みください。

メニュー機能 90

メニューボタンで設定する項目について説明しています。必要に応じてお読みください。

メニュー機能（続き）

パソコンへの接続 ... 157

撮影した画像をパソコンに取り込んで保存することができます。

その他 ... 185

一般的な注意事項や、トラブル時の処置等を記載しています。

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。
ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

 危険 この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う危険性が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

 警告 この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 注意 この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

 △記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。（左図の場合は発火注意）

充電式リチウムイオン電池 NP-400 について

電池は指定カメラ以外の用途に使用しないでください。また充電には専用の充電器をご使用ください。
発火、破裂、液漏れの原因となります。

電池の分解、改造、加熱、および火中・水中への投入は避けてください。特に端子部分は濡らさないでください。また落としたり、大きな衝撃を与えたりしないでください。
危険防止用の安全機構や保護装置が損傷し、発火、破裂、液漏れの原因となります。また異常に気づいたときはすぐに使用を中止し、火気から遠ざけてください。

表面が破損した電池は使用しないでください。
電池内部でショート状態となり、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

危険

プラス（＋）とマイナス（－）を針金などの金属で接続したり、金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり保管したりしないでください。
ショート状態になり、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。

適切な温度・湿度条件下で使用や保管を行なってください。
使用時・充電時温度：0℃～40℃
火のそばや炎天下の車中など（60℃以上になるところ）での使用や充電、保管、放置はしないでください。
高温になると安全機構や保護装置が損傷し、発火、破裂、液漏れの原因となります。10℃以下だと電池の使用可能時間が著しく短くなります。常温（20℃±5℃）でのご使用をおすすめします。
保管時温度：－20℃～30℃
湿度：45%～85%

警告

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を止めてください。
そのまま充電を続けると、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

カメラ・充電器・電池について

⚠ 警告

指定された電池以外を使わないでください。
発火、破裂、液漏れの原因となります。

充電器のACコードは、100〜120ボルト、50/60ヘルツ用です。
日本、アメリカ、カナダ、台湾で使用できます。それ以外の国や地域では使用しないでください。火災や感電の原因となります。

ACアダプターをご使用になる場合は、専用品を表示された電源電圧で正しくお使いください。
表示以外の電源電圧を使用すると、火災や感電の原因となります。

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。
内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店にご依頼ください。

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き（充電器やACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

幼児の口に入るような電池や小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因となります。

⚠ 警告

フラッシュを人の目の近くで発光させないでください。
目の近くでフラッシュを発光すると視力障害を起こす原因となります。

車などの運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。
交通事故の原因となります。

自動車などの運転中や歩行中に撮影したり、液晶モニターを見たりしないでください。
転倒や交通事故の原因となります。

ファインダーを通して、特に取り外したレンズのみで太陽や強い光を見ないでください。
視力障害や失明の原因となります。

風呂場など湿気の多い場所で使用したり、濡れた手で操作したりしないでください。内部に水が入った場合はすみやかに電池を取り出し（充電器やＡＣアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
使用を続けると、火災や感電の原因となります。弊社αデジタルホットラインにご相談ください。

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。
爆発や火災の原因となります。

充電器やＡＣアダプターをご使用の場合、電源コードに重いものを乗せたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、傷つけたり、加熱、破損および加工したりしないでください。またコンセントから抜くときは、電源プラグを持って抜いてください。
コードが傷むと火災や感電の原因となります。コードが傷んだら、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に交換をご依頼ください。

万一使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き（充電器やＡＣアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。電池も高温になっていることがありますので、火傷には十分ご注意ください。
使用を続けると感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

カメラ・充電器・電池について（続き）

直射日光の当たる場所に放置しないでください。

太陽光が近くの物に結像すると、火災の原因となります。やむを得ず直射日光下に置く場合は、レンズキャップを付けてください。

車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管は避けてください。

外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

長時間使用される場合は、皮膚を触れたままにしないでください。

本体の温度が高くなり、低温やけどの原因となることがあります。

長時間の使用後は、すぐに電池やカードを取り出さないでください。

電池やカードが熱くなっているため火傷の原因となります。電源を切って温度が下がるまでしばらくお待ちください。

発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。

発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

目の周りにかゆみや炎症が起こった場合は、使用を止め、医師にご相談ください。

アイピースカップに長時間触れていると、かゆみや炎症の原因となることがあります。

液晶モニターを強く押したり、衝撃を与えたりしないでください。

液晶モニターが割れるとケガの原因となり、中の液体に触れると炎症の原因となります。中の液体に触れてしまった場合は、水でよく洗い流してください。万一目に入った場合は、洗い流した後医師にご相談ください。

充電器やＡＣアダプター使用時は、電源プラグは差し込みの奥までしっかりと差し込んでください。

電源プラグが傷ついていたり、差し込みがゆるい場合は使用しないでください。火災や感電の原因となります。

注意

充電器やACアダプターを布や布団で覆ったり、周りに物を置いたりしないでください。
熱により変形して感電や火災の原因となったり、非常時に電源プラグが抜けなくなったりします。

お手入れの際や長期間使用しないときは、充電器やACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や感電の原因となります。

充電器やACアダプターを、電子式変圧器（海外旅行用の携帯型変圧器など）を介してコンセントに接続しないでください。
故障や火災の原因となります。

KONICA MINOLTAは、コニカミノルタホールディングス株式会社の登録商標です。DiMAGEおよびオンラインラボは、コニカミノルタフォトイメージング株式会社の登録商標です。

WindowsおよびWindows XPは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Apple、Macintosh、Mac OSおよびQuickTimeは、Apple Computer, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
コンパクトフラッシュは、米国SanDisk Corporationの登録商標です。
IBMは、米国International Business Machines Corporationの登録商標または商標です。
AdobeおよびPhotoshop Albumは、米国Adobe Systems Inc.の登録商標または商標です。

その他記載の会社名や製品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。

© 2004 Konica Minolta Photo Imaging, Inc.

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受像機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

はじめに

お買い上げありがとうございます。
ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

ユーザー登録について

本製品をご使用になる前に、お早めにユーザー登録（オンライン登録）をお済ませください。ユーザー登録は、弊社ホームページ（http://ca.konicaminolta.jp/）のユーザー登録のページで行なうことができます。

- このカメラには、弊社のボディ特性に適合するように設計された弊社製のアクセサリーのご使用をおすすめします。他社製品と組み合わせた場合の性能の保証や、それによって生じた事故や故障についての補償はいたしかねますので、あらかじめご了承ください。
- 電池の模造品にご注意ください。模造品には危険防止用の安全機構が備えられていない場合があり、使用はたいへん危険です。弊社純正のリチウムイオン電池をお使いください。

内容物の確認

お買い上げのパッケージに梱包されている内容物は以下の通りです。ご確認の上、不備な点がございましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

カメラ本体（α-7 DIGITAL）
ボディキャップBDC-1000、アクセサリーシューキャップSC-1000、アイピースカップEC-1400付き
ワイドストラップ WS-4
アイピースキャップII、リモートコードクリップ付き
充電式リチウムイオン電池 NP-400
リチウムイオン電池充電器 BC-400
ACコードAPC-170付き
ビデオケーブル VC-500
USBケーブル USB-2
液晶モニター保護パネルMPP-1000
ディマージュ ビューアー CD-ROM
- **DiMAGE Viewer**
- **Windows98/98SE用USBドライバ**

本使用説明書
DiMAGE Viewer用使用説明書
コニカミノルタからのお知らせ
アフターサービスのご案内
保証書

- 本製品にはコンパクトフラッシュカードは入っておりません。別にお買い求めください。

各部の名称

*の付いたところは、直接手で触れないでください。(　)内は参照ページです。

ボディ前面

ボディ背面

CCD面位置表示（33）
視度調整ダイヤル（79）
ドライブモードレバー（62）
1コマ撮影
連続撮影（62）
ブラケット撮影（64）
セルフタイマー（63）
オートロック
アクセサリーシュー（191）
露出モードダイヤル
ロック解除ボタン（52〜56）
ファインダー（15）
露出モードダイヤル（52）
メインスイッチ
（27）
ホワイトバランス設定ボタン（66〜69）
ホワイトバランスモードレバー（66）
AWB オートホワイトバランス
PWB プリセットホワイトバランス（66）
カスタムホワイトバランス（68）
K 色温度設定（69）
AF/MFコントロールボタン（49, 133）
ストラップ取り付け部（19）
後ダイヤル
測光モードレバー（60）
14分割ハニカムパターン測光（60）
中央重点的平均測光（61）
スポット測光（61）
USB／ビデオ出力端子（89、159）
カードスロットふた（25）
アイセンサー
（141）
液晶モニター（16, 17）
AEロックボタン（70, 73, 134）
スポットAF（44, 45）／実行ボタン
AFワイド/ローカル切り替えレバー（44）
ローカルフォーカスフレーム（45）
LOCK フォーカスフレームロック（46）
ワイドフォーカスフレーム（44）
ダイレクトフォーカスフレーム
セレクター（44, 45）／十字キー
手ぶれ補正スイッチ（74）
アクセスランプ（26）
MENU
AEL
AF
SLOW
SYNC
VIDEO
OUT
LOCK
MSET
ISO
CARD
OFF

ボディ背面（液晶モニター周辺）

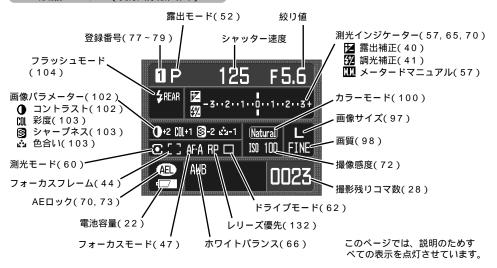
ファインダー

※このページでは、説明のためすべての表示を点灯させています。

液晶モニター（撮影情報画面）

- 露出モード（52）
- 絞り値
- 登録番号（77〜79）
- シャッター速度
- 測光インジケーター（57, 65, 70）
  - 露出補正（40）
  - 調光補正（41）
  - メータードマニュアル（57）
- フラッシュモード（104）
- 画像パラメーター（102）
  - コントラスト（102）
  - COL 彩度（103）
  - シャープネス（103）
  - 色合い（103）
- カラーモード（100）
- 画像サイズ（97）
- 画質（98）
- 測光モード（60）
- 撮像感度（72）
- フォーカスフレーム（44）
- 撮影残りコマ数（28）
- AEロック（70, 73）
- ドライブモード（62）
- 電池容量（22）
- レリーズ優先（132）
- フォーカスモード（47）
- ホワイトバランス（66）

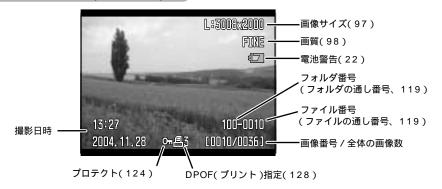
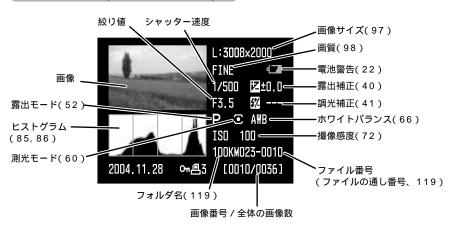
1 P　125　F5.6
REAR　-3··2··1··0··1··2··3+
+2 COL+1 -2 -1　Natural　L
AF-A RP　ISO 100　FINE
AEL　AWB　0023

※このページでは、説明のためすべての表示を点灯させています。

操作ガイド

液晶モニター下部に、次に行なう操作が表示されることがあります。

- ◀▶ 十字キー左右
- ▲▼ 十字キー上下
- ◀▲▼▶ 十字キー上下左右
- ● 十字キー中央の実行ボタン
- 前ダイヤル
- 後ダイヤル
- 前後ダイヤル
- MENU メニューボタンで元に戻る

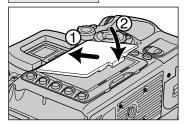
例（左図の場合）
前ダイヤルで絵表示（プリセットホワイトバランス）を選択し、後ダイヤルで数値の調整を行なう。十字キー中央の実行ボタンを押せば操作が完了する。

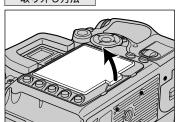
液晶モニター（1コマ再生）

液晶モニター（ヒストグラム再生）

準備と基本撮影

撮影・再生の基本知識を説明しています。デジタルカメラを初めてお使いの方はもちろん、
すでに使ったことのある方もこの章は一通りお読みください。

液晶モニター保護パネル

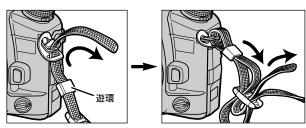
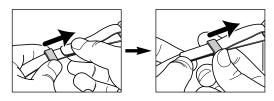
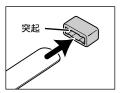
液晶モニターの保護のため、液晶モニター保護パネルを取り付けてお使いください。

取り付け方法

保護パネルの上部をカメラの液晶モニター上部に差し込み①、次に下側をはめ込んで②、全体をしっかり押さえます。

取り外し方法

保護パネルの下部から先に外します。

ストラップを取り付ける

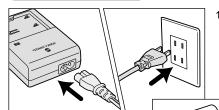
ストラップ取り付け部は2ヵ所あります。リモートコードクリップのある方をグリップと反対側にして、ストラップの両方の先端をそれぞれ取り付けます。

リモートコードクリップ →P.192

ストラップを遊環に通す際、固くて通しにくい場合は、以下の通り、ストラップの先端部分を指で固定して、ストラップでなく遊環を移動させるとスムーズに通ります。

遊環がストラップから外れてしまった場合は、突起部のある方から先に通してください。

電池を入れる

このカメラには、付属の専用電池（充電式リチウムイオン電池NP-400）を使用します。お買い上げの際には電池の充電はされていません。付属の充電器で完全に充電してからお使いください。

● 充電器に付属のコードは日本国内用です。海外でのご使用については →P.190

電池を充電する

1. 電源コードを、充電器の電源ソケットとコンセントにそれぞれ差し込みます。

2. 電池を充電器に取り付けます。

● 接点部分を先に、文字面を下にして入れてください。

● 充電が開始されます。充電中は充電ランプが点灯します。

● 充電時間は約150分です。

3. 充電ランプが消えたら充電完了です。

● 電池を取り出して、コードをコンセントから抜いてください。

● 電池の充電は、ご使用の直前か前日ぐらいにされることをおすすめします。充電した状態で長時間放置すると、自然に放電され、使用できる時間が短くなります。

● 電池の状態によっては、充電器に取り付けた後充電開始までに数秒かかることがあります。

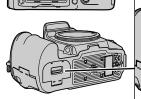
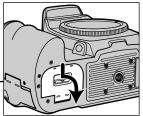
● 電池を保管するときは、ほぼ使い切った状態での保管をおすすめします。フル充電状態での保管は電池の寿命を縮めたり劣化の原因となりますので避けてください。

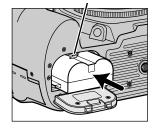
- 長期間使用しないときは、少なくとも半年に1回5分程度の充電をし、カメラでほぼ使い切った状態にしてから再び保管してください。自然放電により完全に放電してしまうと、充電しても使えなくなることがあります。

この製品にはリチウムイオン電池を使用しています。不要になった電池は、お住まいの自治体またはリサイクル協力店等の規則に従って、正しくリサイクルしてください。
リサイクル協力店お問い合わせ先
社団法人 電池工業会
TEL：03-3434-0261
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.baj.or.jp/

- 充電しても著しく撮影枚数が少ない場合は、電池の寿命です。新しい電池をご購入ください。
- 所定の充電時間を越しても充電が完了しない場合には充電を止めてください。

電池を入れる

1. カメラ背面のメインスイッチがOFFになっているのを確認します。

2. カメラ底面の電池室ふたのレバーを図の方向に押します。

- ふたが開きます。

3. 電池室ふた内側の表示にしたがって電池を入れます。

- 電池室内のロックレバーが、しっかり電池をロックするまで押し込んでください。

4. ふたを閉めます。

電池容量の確認

メインスイッチを入れると、電池の容量が液晶モニターに表示されます。

（白）		電池容量は十分です。
（白）		新しい電池の準備をおすすめします。この状態でも撮影はできます。
（赤）		電池の交換をおすすめします。この状態でも撮影はできます。

「電池がなくなりました」　新しい電池と交換してください。シャッターは切れません。

● 長時間の撮影や再生には、別売りのACアダプターをおすすめします。→P.189

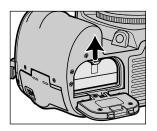
パワーセーブ（操作しないでいると表示が自動的に消えます）

このカメラは、約5秒以上何も操作をしないでいると、液晶モニターの撮影情報画面が消えます。また約3分以上操作をしないでいると、省電力設定になり、ほぼ電源OFFに近い状態になります（パワーセーブ）。シャッターボタンを半押しなど何かカメラを操作すれば、撮影が再開できます。

● 上記の時間（初期設定は5秒／3分）は変更することもできます。→P.153

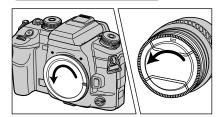
電池を取り出す

1. カメラの電源が切れているのを確認し、電池室を開けます。

2. 電池ロックレバーを図の方向に押して、電池を取り出します。

電池の追加購入

このカメラの専用電池（充電式リチウムイオン電池NP-400）を追加で購入される場合は、「アフターサービスのご案内」に記載の弊社サービス窓口、コニカミノルタネットショップ（弊社ホームページ http://ca.konicaminolta.jp/ よりアクセス可能）、お買い求めの販売店のいずれかでご購入ください。

レンズを取り付ける／取り外す

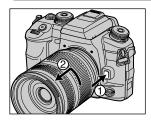
レンズを取り付ける

1. カメラのボディキャップ、レンズの後キャップを外します。

- カメラの内部にホコリや水滴が入らないよう、また内部に触れたり傷つけたりしないように気を付けてください。

2. レンズとカメラの2つの赤い点を合わせてはめ込み①、レンズを軽くカメラに押し付けながら、カチッと音がするまで時計方向にゆっくり回します②。

- レンズを取り付けるときは、レンズ取り外しボタンを押さないでください。

- レンズに無理な力を加えないでください。
- フラッシュを使わずに撮影する場合は、画面外にある光が描写に影響するのを防ぐために、レンズフードの使用をおすすめします。レンズフードは、レンズの使用説明書をご覧の上、正しく装着してください。

レンズを取り外す

レンズ取り外しボタンを押しながら①、レンズを矢印の方向に止まるまで回して取り外します②。

- 取り外した後は、カメラ側・レンズ側ともキャップを付けて保管してください。

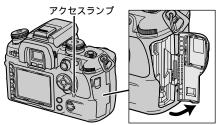
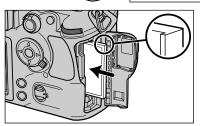
レンズ交換の際に、カメラ内にホコリが入らないように！

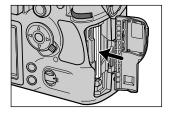
カメラ内にゴミやホコリが入ってCCD表面に付着すると、撮影条件によっては、ゴミやホコリが画像に写り込むことがあります。弊社の品質基準においてはゴミやホコリは厳重に対策を行なっておりますが、レンズの取り付け／取り外しを行なう際に紛れ込むことがありますので、ホコリの多い場所でのレンズ交換は避けるようにしてください。またカメラを保管する際には、必ずレンズまたはボディキャップを取り付けてください。ボディキャップを取り付ける際も、先にキャップのホコリを落としてからカメラに取り付けてください。

万一ゴミやホコリが入ってしまった場合は、セットアップメニューでクリーニングモード設定後、カメラ内部の清掃を行なってください（P.155）。それでも取れない場合は、別紙「アフターサービスのご案内」に記載の弊社アフターサービス窓口にご依頼ください。

カードを入れる／取り出す

カードを入れる

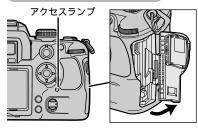
画像を記録するには、コンパクトフラッシュカード（以下CFカードまたはカード）が必要です。

1. メインスイッチを切って、アクセスランプが消えているのを確認し、カードスロットふたを開けます。

2. CFカードの細長い突起部分を図の向きにして、スロットにカードを入れます。

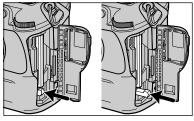
- 中央をまっすぐに押し込みます。端を押し込まないでください。
- カードが奥まで入らない場合は、無理に押し込まずに、カードの向きを確かめてください。

3. カードを奥までしっかり押し込みます。

4. ふたを閉めます。

- CFカードの互換性については、弊社ホームページ（http://ca.konicaminolta.jp/）から「互換性情報」をご覧ください。
- CFカードの代わりに、マイクロドライブや、SDメモリーカード＋SD-CFアダプターの使用も可能です。

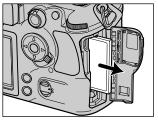
※カードを入れると液晶モニターに「このカードは使えません」のメッセージが現れる場合は →P.198

カードを取り出す

1. メインスイッチを切って、アクセスランプが消えているのを確認し、カードスロットふたを開けます。

アクセスランプ点灯中は、カードを取り出さないでください。カード内のデータが破損する原因となります。

2. カード取り出しレバーを中に押し込みます。

- レバーが出てきます。

3. 再度カード取り出しレバーを押し込みます。

- カードが出てきます。

4. カードを取り出し、ふたを閉めます。

- レバーが出ていてきっちり閉まらない場合は、レバーを押し込んでからふたを閉めてください。
- 長時間使用した直後のカードは熱くなっていますので、注意してください。

電源（メインスイッチ）を入れる

電源を入れて、カメラを撮影モードにします。

メインスイッチをONの方向にスライドさせて、電源を入れます。

日時の設定

ご購入後初めて使用されるときや、長時間電池を抜いたままにした後は、右のメッセージが現れます。以下の要領で日時を設定してください。

1. 十字キー中央の実行ボタンを押します。
- 後で設定する場合は、十字キーの右で［いいえ］を選んでから実行ボタンを押してください。

2. 十字キーの左右で修正したい項目を選びます。

3. 十字キーの上下で数値を変更します。

4. 必要なだけ2、3の操作を繰り返します。
- 「年/月/日」は年月日の並び順を表します。

5. 修正が終わったら、十字キー中央の実行ボタンを押します。
- 時計がスタートします。

- 途中でメニューボタンを押すと、日時設定はキャンセルされます。

※いったん［いいえ］を選んで後で修正する場合は →P.149

撮影できるコマ数

CFカードを入れてメインスイッチをONにすると、液晶モニターに、撮影残りコマ数（現在の設定で撮影を続けると、後何枚撮影できるか）が表示されます。

- 1枚のCFカードに記録できるコマ数は、カードの容量、カメラで設定された画像サイズおよび画質によって異なります。例として256MBのCFカードで初期設定で撮影する場合、記録できるコマ数は約81枚です（画像サイズL: 3008×2000、画質ファイン）。 ※詳細は →P.100
- 0000が赤く点滅したときは、カードがいっぱいです。カードを交換するか、カード内の画像を消去してください。画像サイズや画質を変更すると撮影できることもあります。
- ファイルサイズは被写体によって異なるため、撮影シーンによっては、撮影後に撮影残り画像数表示が変化しない場合もあります。
- 旅行など撮影枚数の多い場合は、予備のカードを用意されることをおすすめします。

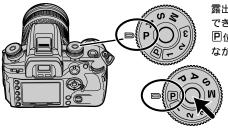
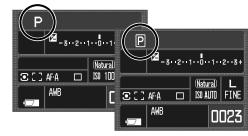
ファインダーには、連続して撮影できる最大コマ数（＝カメラの内蔵メモリに保存できる枚数）が表示されます。10コマ以上の場合でも、表示される最大コマ数は8～9コマです。続けて撮影して数が減っても、撮影データのカードへの保存が終了すれば、コマ数は元に戻ります。

カメラを構える

カメラが動くとぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。手ぶれ補正機能をONにして使われることをおすすめします。→P.74

- 右手でカメラのグリップを持ち、脇を閉め、左手でレンズの下側を持って支えます。
- 片足を軽く踏み出し、上半身を安定させます。壁にもたれたり、机などに肘をついたりしても効果があります。

- 暗い場所でフラッシュを使わずに撮影する場合や、望遠レンズで撮影する場合は、手ぶれが起こりやすくなります。手ぶれ補正スイッチをOFFにして、三脚などにカメラを固定して撮影することをおすすめします。
- 別売りの縦位置コントロールグリップVC-7Dを使用すると、縦位置でも横位置とほとんど変わらない操作性を保つことができます。

Pモードとフルオートプログラム🄿について

露出モードダイヤルで、基本的な撮影モードを選ぶことができます。カメラを基本の状態で使いたい場合、Pまたは🄿位置をおすすめします。中央のロック解除ボタンを押しながらダイヤルを回してください。

P：P（プログラム）モード撮影

このカメラの最も基本的なモードです。一度行なった設定は原則として再度変更するまで保持されます。Pモードでは、シャッター速度と絞り値が自動で設定されます。**→P.52**

🄿：フルオートプログラム撮影

カメラの主な機能が、一時的に自動設定になります。カメラまかせで気軽に撮影したいときや、他のモードでの設定変更後に一時的に自動設定に戻す場合に便利です。🄿位置で新たな設定を加えることも可能です。

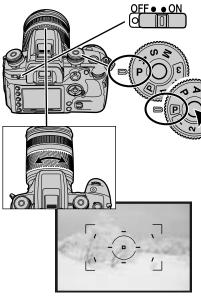
- フルオートプログラム撮影で一時的に自動設定に戻る項目は以下の通りです。　※一覧表は →P.186

  ◆ダイヤルやレバーでの設定
  露出補正、調光補正、フォーカスフレーム、フォーカスモード、測光モード、ドライブモード、ホワイトバランス、撮像感度

  ◆撮影メニュー
  画像サイズ、画質、カラーモード、画像パラメーター、フラッシュモード、調光モード、定常光／フラッシュブラケット設定、ノイズリダクション

- フルオートプログラム撮影では、カメラ上のダイヤルやレバーの位置と、実際に撮影に使われる設定とが一致しない場合があります。レバーの位置ではなく、液晶モニターの情報を元に撮影を行なってください。

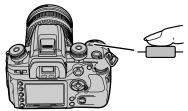
撮影する

ここでは、最も基本的な全自動撮影について説明しています。

1. メインスイッチをONにして電源を入れます。

2. 露出モードダイヤルロック解除ボタンを押しながら、露出モードダイヤルをPまたはⓅに合わせます。

※PとⓅについて →P.29

3. ファインダーをのぞき、ズームレンズの場合はズームリングを回して構図を決めます。

- フラッシュを発光させたいときは、内蔵フラッシュを上げてください。→P.34
- レンズに記載されている焦点距離はフィルムカメラ用です。この値を約1.5倍にすると、このカメラでの35mmフィルム換算に相当する値を求めることができます。※換算表は →P.37

4. シャッターボタンを半押しします。

- シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。そこまで押すことを「半押し」と呼んでいます。
- 「　」の中のものにピントが合います。※ピントが合わないときは →P.32
- ファインダーの画像や表示がはっきり見えないときは、視度を調整してください。→P.79

● 半押しして現れるファインダー内の表示は以下の通りです。

5. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

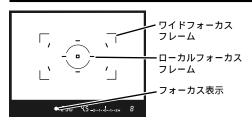
● 撮影後、液晶モニターに撮影画像が2秒間表示されます。表示時間の変更もできます。→アフタービュー、P.113

● 撮影された画像が自動的にCFカードに記録・保存されます。保存中はアクセスランプが点灯しますので、その間はカードや電池を抜かないでください。

ファインダー内に が出たときは、シャッター速度が遅くなっているので手ぶれの恐れがあります。手ぶれ補正スイッチをONにするか（P.74）、フラッシュ撮影（P.34）または三脚の使用をおすすめします。

● 撮影後は、メインスイッチをOFFにしてください。

● レンズキャップを付けるか、レンズを外す場合はボディキャップを付けて保管してください。

ピント合わせ

ワイドフォーカスフレーム［　］の中には、ピントを合わせるためのセンサー（ローカルフォーカスフレーム）が9個あります。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合っている部分のセンサーが一瞬赤く点灯して、どこにピントが合っているかをお知らせします。

フォーカス表示

シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、ファインダー内のフォーカス表示がその状態をお知らせします。

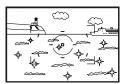
フォーカス表示	状況
● 点灯	ピントが合って固定されています。撮影できます。
((●)) 点灯	ピントが合っています。被写体の動きに合わせてピント位置が変わります。撮影できます。
(( )) 点灯	ピント合わせの途中で、シャッターは切れません。
● 点滅	ピントが合わず、シャッターは切れません。以下を確認してください。 撮りたいものに近づき過ぎていませんか？ ご使用のレンズの最短撮影距離よりも近いものにはピントが合いません。 被写体が［　］から外れていませんか？ 外れるとピントが合いません。 被写体が動いていませんか？ 動いている物を撮影する時は、コンティニュアスAFをおすすめします。→P.48 オートフォーカスの苦手な被写体ではありませんか？ オートフォーカスの苦手な被写体（P.33）だと、オートフォーカスではピント合わせができません。フォーカスロック撮影（P.43）またはマニュアルフォーカス撮影（P.48）を行なってください。 ※ ● の点滅中でもシャッターが切れるようにする場合は →レリーズ優先、P.132

オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカスのピント合わせは、被写体のコントラスト（明暗差）を利用しています。したがって、次のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。ピントが合わない場合は、ファインダー内のフォーカス表示が点滅します（P.32）。このような場合は、フォーカスロック撮影（P.43）またはマニュアルフォーカス撮影（P.48）を行なってください。

青空や白壁など
コントラストのないもの

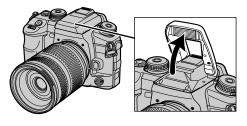
［　］の中に
距離の異なるものが
混じっているとき

ビルの外観など、
繰り返しパターンの
連続するもの

太陽のように
明るいものや、
車のボディ、水面など
きらきら輝いているもの

撮影距離を正確に測るには

カメラ上面の－⊖－のマークは、CCD*面の位置を表します。このマークの位置から被写体までの距離が正確な撮影距離です。

*CCD ＝ デジタルカメラでフィルムの役割を果たす部分

フラッシュ撮影

フラッシュを発光させるときは、内蔵フラッシュを手で上げてください。上げていると必ず発光します。

フラッシュを発光させないときは、内蔵フラッシュを手で押し下げてください。

フラッシュ表示

フラッシュが上がっているときにシャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にフラッシュ表示が現れます。

フラッシュ表示	状況
ϟ 点灯	**フラッシュの充電が完了しました。フラッシュ撮影ができます。** この表示が現われないときは、フラッシュが充電中です。点灯するのを待って撮影してください。
ϟ 点滅（撮影後）	**フラッシュ光が被写体に届きました。** この表示が現われないときは、フラッシュ光が被写体に届いていません。フラッシュ光の届く距離を確認してください。

- 暗いところでフラッシュ撮影をすると、シャッターボタンを半押ししたときに、フラッシュが発光することがあります。これはオートフォーカスでピントを合わせやすくするためのAF補助光です。→P.79
- このカメラではフラッシュの発光量を正確に決めるため、フラッシュ発光時には撮影の直前に一度フラッシュが発光します（プリ発光）。よって本発光と合わせてフラッシュが数回続けて発光します。※詳しくは → P.110

フラッシュ光の届く距離（フラッシュ調光距離）

内蔵フラッシュによる調光距離（適正露出の得られる範囲）は、絞り値と撮像感度によって異なります。右の表は、初期設定の撮像感度ISO 100時の調光距離です。

※撮像感度 →P.72

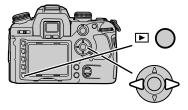
絞り値	調光距離
F2.8	1.0〜4.3m
F4	1.0〜3.0m
F5.6	1.0〜2.1m

内蔵フラッシュ使用時の注意

内蔵フラッシュで撮影する場合は、フラッシュ光がレンズでさえぎられて、写真の下部に影ができることがあります。以下の点に気を付けて撮影してください。

- 被写体から1m以上離れて撮影してください。
- レンズフードは取り外してください。
- このカメラの内蔵フラッシュは、レンズ表記上24mm以上の焦点距離の画角をカバーします。
- AFアポテレ600mm F4（ハイスピードタイプを含む）では、フラッシュ光がレンズでさえぎられるため、内蔵フラッシュによる撮影はできません。

撮影した画像を確認する／消去する

画像を確認する

撮影した画像はすぐに見ることができます。

1. 撮影後、再生ボタンを押します。

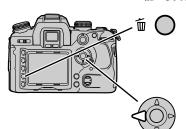
● 直前に撮影された画像が液晶モニターに現れます。

2. 十字キーの左右で見たい画像を選びます。

3. もう一度再生ボタンを押すと撮影モードに戻ります。

※再生の詳細について →P.83

画像を消去する

1. 上記の要領で、再生ボタンと十字キーで消去したい画像を表示させます。

2. 消去ボタンを押します。

● 右の画面が現れます。

● 消去しない場合は、この状態で十字キー中央の実行ボタンを押してください。

3. 十字キーの左側で「はい」を選びます。

4. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 選んだ画像が消去されます。

● この後、続けて画像を消去することもできます。

5. 再生ボタンを押して（またはシャッターボタンを半押しして）通常の撮影モードに戻ります。

● 消去する際、「はい」を先に選択した状態にすることもできます。→P.154

※複数の画像を一度に消去するときは →P.120

各機能の説明（撮影）

この章では、撮影の際の各種設定について説明しています。必要に応じてお読みください。

焦点距離について

35mmフィルムカメラのフィルムサイズが36×24mmなのに対し、このカメラのCCD（フィルムの役割を果たす部分）のサイズは23.5×15.7mmです。このため、同じ焦点距離のレンズでも、フィルムカメラとこのカメラでは得られる画角が異なります。
例えばフィルムカメラでは、焦点距離50mmのレンズを付けると、画角47°の画像が得られます。同じく焦点距離50mmのレンズをこのカメラに付けると、画角は32°となり、従来のフィルムカメラで約75mmに相当する画像が得られます。
お手持ちのレンズの焦点距離を約1.5倍（36÷23.5　1.5）にすると、このカメラで撮影する場合の35mmフィルム換算焦点距離が得られます。以下は主な焦点距離の換算表です。

レンズの仕様上の焦点距離	17	24	28	35	50	75	105	200	300
このカメラでの35mm換算焦点距離	25.5	36	42	52.5	75	112.5	157.5	300	450

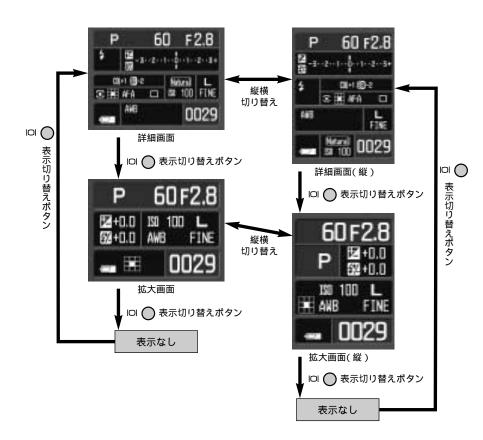
撮影情報画面の切り替え

撮影時には、カメラ背面の液晶モニターに、各種の撮影情報が表示されます。
表示切り替えボタンを押すと、数多くの表示が可能な詳細画面と、大きくて見やすい拡大画面とを切り替えることができます。表示をなくして、電池の消耗を少なくすることもできます。

※個々の表示内容について →P.16

またカメラを縦位置に構えると、画面が自動的に縦向きに変わります。

- この使用説明書では、横方向の詳細画面（次ページ左上）で説明しています。
- 露出モードダイヤルがPまたは登録1〜3の場合、カメラのダイヤルやレバーの位置は、実際のカメラの設定と異なります。液晶モニターの撮影情報は正確ですので、撮影情報画面を参考に撮影を行なってください。
- 縦位置に構えても縦画面を出さないようにすることもできます。→P.142

詳細画面
表示切り替えボタン
拡大画面
表示切り替えボタン
表示なし
表示切り替えボタン
縦横
切り替え
詳細画面（縦）
表示切り替えボタン
縦横
切り替え
拡大画面（縦）
表示切り替えボタン
表示なし
表示切り替えボタン

露出補正

**画面全体を明るくしたり暗くしたりします。±2.0の範囲で0.3段ごと、または±3.0の範囲で0.5段ごとに設定できます。
＋側にすると画面全体が明るくなります。白い被写体を白く表現するときや、黒い被写体をつぶさずに描写するときなどに使います。
－側にすると画面全体が暗くなります。黒い被写体を黒く表現するときなどに使います。**

露出補正＋側

露出補正－側

露出補正ダイヤルロック解除ボタンを押しながら、露出補正ダイヤルを希望の補正量の位置まで回します。

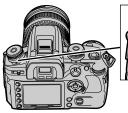
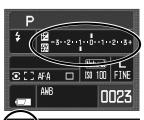
- ダイヤル上で、オレンジ色の文字側が0.3段刻みの1/3Evステップ側、白い文字側が0.5段刻みの1/2Evステップ側です。

1/2Evステップ側（0.5段刻み）

1/3Evステップ側（0.3段刻み）

- 露出補正0位置から他へ移動するときと、1/3Evステップ・1/2Evステップ間を行き来するときだけ、露出補正ダイヤルロック解除ボタンを押してダイヤルを回してください。それ以外は押さなくても回ります。
- 設定した露出補正値は、液晶モニターの測光インジケーターに表示されます。シャッターボタンを半押しすればファインダー内にも現れます。
- 露出補正をひんぱんに使用する場合、前または後ダイヤルを回すだけで露出補正ができるようすることもできます。→P.137
- レンズに記載されている最大／最小絞り値は、1/2Evステップによる値です。1/3Evステップに設定した場合、レンズによっては記載値通りの最大／最小絞り値が表示されないことがありますが、実際には記載されている最大／最小絞り値で制御されています。

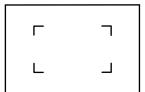
調光補正

フラッシュ撮影の際、露出補正とは別に、フラッシュの発光量だけを調整することができます。フラッシュ光の届かない背景の露出はそのままで、フラッシュ光が届く主被写体だけの露出を変えることができます。±2.0の範囲で0.5段ごとに設定できます。

フラッシュ調光補正レバーを、希望の補正量の位置まで回します。

- 内蔵フラッシュを上げると、設定した調光補正値が液晶モニターの測光インジケーターの下側に表示されます。
- シャッターボタンを半押しすれば、ファインダー内に ⚡± が表示されます。
- 特に内蔵フラッシュで調光補正を行なう場合、フラッシュの光量が限られているため、被写体がフラッシュ光の最大到達距離（調光距離）付近にあるときは、オーバー側の効果が出ないことがあります。同様に近接撮影ではアンダー側の効果が出ないことがあります。

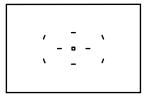
露出補正と調光補正の違い

露出補正では、シャッター速度・絞り値・撮像感度（オートの場合）が変化することによって補正が行われます。フラッシュが発光する場合は、それに加えてフラッシュの発光量も同時に変化*します。
一方調光補正では、フラッシュの発光量のみが変化します。写真全体に対するフラッシュ光の影響を相対的にコントロールすることができます。例えばフラッシュ光を少なめに仕上げたいときは、調光補正をややアンダー側（－側）に設定しておき、同時に露出補正をオーバー側（＋側）にかけて全体の明るさを調整する、といった使い方ができます。

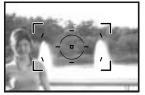
* 露出補正をかけてもフラッシュの発光量を変化させないようにすることもできます。→P.139

フォーカス ― フォーカスフレーム関連

ワイドフォーカスフレーム

このカメラでは、ピントを合わせる範囲が広いワイドフォーカスを採用、動きのある被写体でもピント合わせが容易に行えるようになっています。ワイドフォーカスでピント合わせができる範囲は、ワイドフォーカスフレームで表されています。

ローカルフォーカスフレーム
（中央はｽﾎﾟｯﾄﾌｫｰｶｽﾌﾚｰﾑ）

ワイドフォーカスフレーム内には9つのセンサーがあり、センサーのある位置はローカルフォーカスフレームで表されています。被写体の位置に応じて、9ヵ所のセンサーのうちのどれかが作動してピントを合わせます。シャッターボタンを半押ししてピントが固定されると、ピント合わせに使われたセンサー位置のローカルフォーカスフレームが一瞬点灯して、どの部分にピントが合っているかをお知らせします。

● 中央のローカルフォーカスフレーム（スポットフォーカスフレーム）はクロス型センサー（＋）となっており、あらゆる被写体に対してより正確なピント合わせができるような仕組みになっています。
● 連続撮影時やシャッターボタンを一気に押し込んだときなど、ローカルフォーカスフレームが点灯しないことがあります。
● ローカルフォーカスフレームの点灯時間を変更したり、点灯しないようにすることもできます。→P.141

被写体がフォーカスフレームに入らないときは（フォーカスロック撮影）

オートフォーカスで撮影する場合、通常は、ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレーム［　］に入れて撮影します。
ピントを合わせたいものが［　］に入らないときにそのまま撮影すると、［　］と重なっている背景にピントが合って人物がぼけてしまいます。このようなときは、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

- この方法は、オートフォーカスの苦手な被写体を撮影する際にも有効です。→P.33

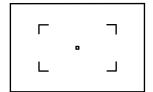
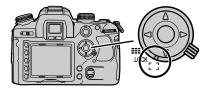
1. ピントを合わせたいものに［　］を合わせ、シャッターボタンを半押しします。

- ファインダー内の ● が点灯し、ピントが合った部分のローカルフォーカスフレームが一瞬赤く点灯します。

2.シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に戻します。

3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- ピントと同時に露出も固定されます（14分割ハニカムパターン測光選択時のみ、P.60）。
- 撮影後、シャッターボタンから指を離すと、ピントの固定は解除されます。撮影後も指を離さずにそのまま半押し状態に戻すと、同じピント位置で連続して撮影できます。
- ファインダー内の ● が点灯しないとき（被写体が動いているとき）は、シャッターボタン半押しによるフォーカスロック撮影はできません。
- ［　］内の任意の位置でピントを合わせたり（ダイレクトフォーカスフレームセレクター）、シャッターボタン半押し以外でのフォーカスロック撮影も可能です（P.44）。

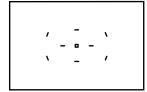
ワイド／スポットフォーカスフレームを使用する

ワイドフォーカスフレーム内の9つのセンサー（ローカルフォーカスフレーム）のうち、どれをピント合わせに使うかをカメラが自動的に決定します。また、スポットAFボタンを押すだけで中央のスポットフォーカスフレームを選ぶこともできます。

1. AFワイド／ローカル切り替えレバーを［　］（ワイド）に合わせます。

2. ダイレクトフォーカスフレームセレクター（以下セレクター）を押すと、ワイドフォーカスフレームでピントが合います。
スポットAFボタンを押すと、中央のスポットフォーカスフレームでピントが合います。

- ピントが合うと、ピント合わせに使われたフレームが一瞬点灯します。
- セレクターまたはボタンを押している間は、ピントが固定されています。
- セレクターを押す方向と実際にピント合わせに使われるフレームとは無関係です。

3. セレクターまたはスポットAFボタンを押したまま、シャッターボタンを押して撮影します。

- 撮影後も、セレクターまたはスポットAFボタンを押し続けていると、同じピント位置で続けて撮影することができます。
- 14分割ハニカムパターン測光選択時は、ピントと同時に露出も固定されます。

ローカル／スポットフォーカスフレームを使用する

9つのローカルフォーカスフレームから任意のフレームを選ぶ方法です。

1. AFワイド／ローカル切り替えレバーを☷（ローカル）に合わせます。

2. ダイレクトフォーカスフレームセレクター（以下セレクター）を押すと、押した位置のローカルフォーカスフレームでピントが合います。
スポットAFボタンを押すと、中央のスポットフォーカスフレームでピントが合います。

- セレクターは8方向に押せるので、すべてのフレームが瞬時に選べます。選んだフレームは一瞬点灯します。
- セレクターまたはボタンを押している間は、ピントが固定されています。

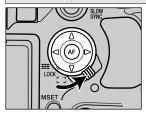
3. シャッターボタンを押して撮影します。

- 撮影後も、セレクターまたはスポットAFボタンを押し続けていると、同じピント位置で続けて撮影することができます。
- 14分割ハニカムパターン測光選択時は、ピントと同時に露出も固定されます。
- AFレフレックス500mm F8およびAFパワーズーム35-80mm F4-5.6使用時には、中央のスポットフォーカスフレームしか選択できません。

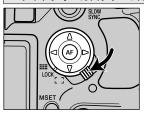
常に同じフォーカスフレームでピントを合わせる

P.44～45で選択したフォーカスフレームをロックして、常にそれを使用することができます。

- AFワイド／ローカル切り替えレバーをロックした状態では、セレクターやスポットAFボタンの操作は無効となります（押しても何も起こりません）。間違って操作したくない場合にお使いください。
- 撮影後も、同じフォーカスフレームのままで撮影を続けることができます。

ローカルフォーカスフレーム（またはスポットフォーカスフレーム）をロックする

1. AFワイド／ローカル切り替えレバーを☷に合わせて、希望のローカルフォーカスフレームまたはスポットフォーカスフレームを選択します。

2. AFワイド／ローカル切り替えレバーをLOCKに合わせます。

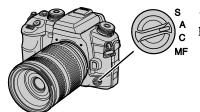
ワイドフォーカスフレームをロックする

1. AFワイド／ローカル切り替えレバーを［　］に合わせます。

2. AFワイド／ローカル切り替えレバーをLOCKに合わせます。

フォーカス — フォーカスモード

このカメラには、3種類のオートフォーカスモードとマニュアルフォーカスモードがあり、撮影者の意図や使い方に応じて切り替えることができます。

AF-A	AF制御自動切り替え	被写体に応じて、AF-SとAF-Cが自動的に切り替わります。
AF-S	ワンショットAF	シャッターボタン半押しでピントが固定されます。
AF-C	コンティニュアスAF	シャッターボタンを半押ししている間、ピントが動き続けます。
MF	マニュアルフォーカス	手動でピントを合わせます。

AF = Autofocus（オートフォーカス）、MF = Manual focus（マニュアルフォーカス）の略
A = Automatic、S = Single、C = Continuous の略

フォーカスモードレバーで希望の設定を選びます。

オートフォーカス

シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われます。

AF制御自動切り替え（AF-A）

被写体の動きに応じて、コンティニュアスAFとワンショットAFとが自動的に切り替わります。被写体が動いているときは、シャッターボタン半押し中はピントを合わせ続けます。静止被写体の場合は、シャッターボタン半押しで一度だけピントを合わせ、そこでピント位置を固定（フォーカスロック）します。人物撮影や記念撮影からスナップ、風景写真など幅広いシーンでお使いいただけます。

ワンショットAF（AF-S）

シャッターボタンを半押しするとピント合わせが行われ、ピントが合うとピント位置はそこで固定されます。静止している被写体の撮影に適しています。

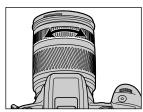
コンティニュアスAF（AF-C）

シャッターボタンを半押ししている間中、ピントを合わせ続けます。動いている被写体の撮影に便利です。

● ワイドフォーカスフレーム設定時は、被写体が動くと、それに合わせてピントを合わせるフレームも変わります。新たにピントの合ったフレームは赤く点灯します。
● ピントが合ったときのブザー音は鳴りません。→P.148

マニュアルフォーカス

被写体までの距離を自由に設定することができます。

1. フォーカスモードレバーをMFに合わせます。

2. 被写体が最もはっきり見えるように、レンズのフォーカスリングを左右に回します。

● オートフォーカスでピントが合うような被写体の場合は、ピントが合うとファインダー内のフォーカス表示 ● が点灯します。ワイドフォーカスフレーム時は中央のフレームが、ローカルフォーカスフレーム時はセレクターで選んだフレームが使用されます。
● AF/MFコントロールボタンを使えば、オートフォーカスとマニュアルフォーカスの切り替えがより簡単にできます。→P.49
● AFズームXiレンズ・AFパワーズームレンズをお使いの場合は、ズームリングをカメラ側に引き、そのまま左右に回します。被写体が最もはっきり見えるところでシャッターボタンを押して撮影してください。
● このカメラでは、マニュアルフォーカス時でもより安定した露出が得られるよう、露出の決定に距離情報を利用しています。距離情報の精度を高めるため、メインスイッチをONにすると、ピントがいったん無限遠位置（∞）にリセットされます。

※テレコンバーター使用時など、フォーカスリングの動きが重いときは →P.51

AF/MFコントロールボタン

フォーカスモードは通常はカメラ前面のフォーカスモードで選びますが、背面のAF/MFコントロールボタンを使うと、撮影中にカメラのホールディングを崩すことなく、より簡単にオートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替えることができます。

- Xiズームレンズ、AFパワーズームレンズ、STF135mm F2.8 [T4.5]レンズでは、AF/MFコントロールボタンは使用できません。

オートフォーカスでAF/MFコントロールボタンを使う

オートフォーカス（AF-A・S・C）設定時にAF/MFコントロールボタンを押すと、押している間は一時的にマニュアルフォーカスになります。AF/MFコントロールボタンを押したまま、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせてください。

- マニュアルフォーカス中は、ファインダー内に MF が表示されます。液晶モニターの表示はオートフォーカスのままです。
- AF/MFコントロールボタンを押している間は、それまでのピント位置はそのまま保持されるので、フォーカスロックとして使うこともできます。
- AF/MFコントロールボタンを一度押すとマニュアルフォーカス、もう一度押すとオートフォーカスに戻る、という設定にすることができます。→P.133

マニュアルフォーカスでAF/MFコントロールボタンを使う

マニュアルフォーカス（MF）設定時にAF/MFコントロールボタンを押すと、オートフォーカスが起動してピントを合わせます。

- ピントが合った後、AF/MFコントロールボタンを押している間はピント位置が固定されています。
- マニュアルフォーカスを中心に使用、必要時のみオートフォーカスを使われる方に便利な機能です。
- AF/MFコントロールボタンを押している間は、ファインダー内の MF は消灯します。液晶モニターの表示はMFのままです。
- AF/MFコントロールボタンを一度押すとオートフォーカスが起動、もう一度押すとマニュアルフォーカスに戻る、という設定にすることができます。→P.133

フォーカス機能あれこれ

このカメラではさまざまな方法でピントのコントロールができます。以下に主なものをまとめました。

◆カメラのホールディングを崩さずに素早くオートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替える

● AF/MFコントロールボタンを使用する。→P.49

◆オートフォーカスでピントを合わせた後、マニュアルフォーカスでピントの微調整をする

● オートフォーカスでAF/MFコントロールボタンを使用する。ボタンを押したままフォーカスリングを回してピントを合わせる。→P.49
● カスタムメニューでDMF（ダイレクトマニュアルフォーカス）を選択、オートフォーカスでシャッターボタン半押しでピントを固定させた後、フォーカスリングを回してピントを合わせる。→P.136

◆マニュアルフォーカスを中心に使用、必要に応じてオートフォーカスにする

● マニュアルフォーカスに設定、AF/MFコントロールボタンでオートフォーカスを行なう。→P.49

◆オートフォーカスでフォーカスロック（ピントの固定）をする

● シャッターボタンを半押しし続ける。→P.43
● ダイレクトフォーカスフレームセレクターまたはスポットAFボタンを押し続ける。→P.44, 45
● AF/MFコントロールボタンを押し続ける。→P.49

● シャッターボタン半押しでのピント合わせがわずらわしい場合は、解除することもできます。→P.135

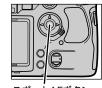
テレコンバーター使用時など、マニュアルフォーカスでフォーカスリングの回転が重く感じられるときは、以下いずれかの方法をお試しください。

スポットAFボタン

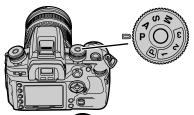
◆レンズがすでに取り付けられている場合

1. フォーカスモードレバーをMFに合わせます。
2. スポットAFボタンを押しながらレンズ取り外しボタンを押します。
3. レンズ取り外しボタン、次にスポットAFボタンの順に手を離します。

◆レンズを取り付ける前

フォーカスモードレバーをMFに合わせ、スポットAFボタンを押しながらレンズを取り付けます。

- 液晶モニターのMFの表示が反転して MF になります。
- AF/MFコントロールボタンは機能しません。
- 距離情報が得られなくなるので、手ぶれ補正の効果が落ちます。また、露出やフラッシュ調光の性能も十分に発揮することはできません(例：測光モードレバーで14分割ハニカムパターン測光を選択していても、カメラは中央重点的平均測光に近い方式で測光を行います)。その他の撮影には支障ありません。
- Xiズームレンズ、AFパワーズームレンズではこの設定はできません。

露出モード

同じシーン、同じ被写体でも、シャッター速度や絞り値を変えると写真の描写が変わります。露出モードを変えることで、シャッター速度と絞り値のどちらか一方、あるいは両方を自分で決めることができます。露出モードダイヤルで設定します。

Pモード
シャッター速度と絞り値の両方が自動的に決まります。Pモードで前または後ダイヤルを回すと、プログラムシフトになります。

Aモード
希望の絞り値を決めることができます。→P.54

Sモード
希望のシャッター速度を決めることができます。→P.55

Mモード
希望のシャッター速度と絞り値を決めることができます。
→P.56

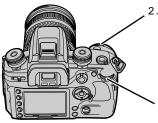
P（プログラム）モード

シャッター速度と絞り値が自動的に決まります。シャッターチャンスに専念することができ、スナップ写真など一般撮影に最適です。

露出モードダイヤルロック解除ボタンを押しながら、露出モードダイヤルをPに合わせます。

プログラムシフト

Pモードのまま、一時的に絞り値とシャッター速度の組み合わせを変えることができます(PA／Psシフト)。

1. Pモードの状態で、シャッターボタンを半押しして、測光値（シャッター速度と絞り値）を表示させます。

2. 測光値が表示されている状態で、前ダイヤルを回すとPsシフトになります。

● 希望のシャッター速度を選ぶことができます。絞り値は自動的に決まります。

後ダイヤルを回すとPAシフトになります。

● 希望の絞り値を選ぶことができます。シャッター速度は自動的に決まります。

● 測光値が表示されていれば、シャッターボタンの半押しを続ける必要はありません。
● 露出モードダイヤルロック解除ボタンを押すか、数秒経過して測光値が消えると、設定した値も消えます。
● フラッシュが発光する場合は、プログラムシフトにはなりません（ダイヤルを回しても何も変わりません）。プログラムシフト中に内蔵フラッシュを上げると、プログラムシフトはキャンセルされます。

A（絞り優先）モード

撮影者が希望の絞り値を決めることができます。絞りとは、レンズを通して入ってくる光の量を調整するもので、絞り値が変わると被写体の前後のピントの状態が変わり、背景をぼかしたり、くっきり写したりすることができます。
絞り値を2.8などに小さくすると、被写体の前後がぼけやすくなります（写真左）。
逆に16などに大きくすると、近くのものから遠くのものまでくっきりと写ります（写真右）。

絞り値が小さいとき
（絞りを開けたとき）

絞り値が大きいとき
（絞りを絞り込んだとき）

● プレビュー機能を使うと、撮影前におおよその被写体のぼけ具合を確認することができます。→P.75

1. 露出モードダイヤルロック解除ボタンを押しながら、露出モードダイヤルをAに合わせます。

2. 前または後ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

● 露出補正ダイヤルが1/3Evステップになっているときは1/3段ごとに、1/2Evステップのときは1/2段ごとに絞り値が変わります。→P.40

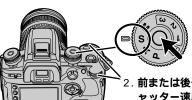
● シャッターボタンを半押ししたときにシャッター速度が点滅した場合は、カメラの制御範囲を超えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。点滅しない範囲で絞り値を設定してください。

● フラッシュを使用する場合、絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞り値を小さめにして（開放側で）撮影することをおすすめします。
● 絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）とレンズを通る光の量が減少し、シャッター速度が遅くなります。三脚を使って撮影されることをおすすめします。

S（シャッター速度優先）モード

撮影者が希望のシャッター速度を決めることができます。シャッター速度が変わると動いているものの写り方が変わります。
シャッター速度を1/1000秒などに速くすると、動いているものがくっきりと止まって写ります（写真左）。逆に1/15秒などに遅くすると、動いているものが流れるように写ります（写真右）。

シャッター速度が速いとき

シャッター速度が遅いとき
（流し撮りの例）

1. 露出モードダイヤルロック解除ボタンを押しながら、露出モードダイヤルをSに合わせます。

2. 前または後ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。

- 30秒～1/4000秒の範囲から選ぶことができます。フラッシュ発光時には、30秒～1/125秒（手ぶれ補正ON時）または1/160秒（手ぶれ補正OFF時）の範囲で選ぶことができます。
- 露出補正ダイヤルが1/3Evステップになっているときは1/3段ごとに、1/2Evステップのときは1/2段ごとにシャッター速度が変わります。→P.40

- シャッターボタンを半押ししたときに絞り値が点滅した場合は、カメラの制御範囲を超えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。点滅しない範囲でシャッター速度を設定してください。
- フラッシュを使用する場合、シャッター速度を遅くして絞りが絞り込まれる（絞り値が大きくなる）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。シャッター速度を遅くしたい場合は、スローシンクロ撮影をおすすめします。→P.73
- シャッター速度が1秒以上の場合、撮影後にノイズ軽減処理（ノイズリダクション）が行なわれます。→P.115

M（マニュアル）モード

Aモード、Sモードで説明した絞り値とシャッター速度の両方を、自由に選ぶことができます。絞り値とシャッター速度の両方を固定したままで撮影したいときや、露出計を使って撮影するときなどに便利です。

1. 露出モードダイヤルロック解除ボタンを押しながら、露出モードダイヤルをMに合わせます。

2. 前ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。

- 30秒～1/4000秒の範囲から選ぶことができます。フラッシュ発光時には、30秒～1/125秒（手ぶれ補正ON時）または1/160秒（手ぶれ補正OFF時）の範囲で選ぶことができます。
- 30秒の次にはBULB（バルブ撮影）が表示されます。→P.58

3. 後ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

- フラッシュを使用する場合、絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞り値を小さめにして（開放側で）撮影することをおすすめします。
- Mモードでは、撮像感度（P.72）をオートにしていると、常にISO 100相当に固定されます。
- シャッター速度が1秒以上の場合、撮影後にノイズ軽減処理（ノイズリダクション）が行なわれます。→P.115
- 前後ダイヤルの機能を入れ替えて、前ダイヤルで絞り値、後ダイヤルでシャッター速度が選べるようにすることもできます。→P.137

Mモード時の測光インジケーター

Mモード撮影では、液晶モニターとファインダー内の測光インジケーターに、カメラが測光した値を基準値（0）として、撮影者が選んだシャッター速度と絞り値による値が表示されます（メータードマニュアル）。

M.M. ＝ Metered manual（メータードマニュアル）の略

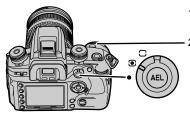
基準露出
（カメラが測光した基準値と撮影者が設定した値が同じ）

＋1段露出オーバー
（撮影者が設定した値は、カメラが測光した基準値より＋1段オーバー）

インジケーターの端まで来ると、まず◁▷が点灯、次に点滅します。

- 露出補正ダイヤルが1/3Evステップになっているときは測光インジケーターも1/3段ごとに、1/2Evステップのときは1/2段ごとの表示になります。→P.40
- 露出補正をかけると、露出補正分もインジケーターに反映されます。

マニュアルシフト

Mモードに設定後、露出はそのままでシャッター速度と絞り値の組み合わせを変えることができます。

1. Mモードでシャッター速度と絞り値を選びます。

2. AEロックボタンを押しながら前ダイヤルを回し、希望のシャッター速度と絞り値の組み合わせを選びます。

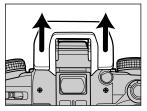
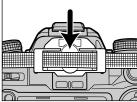
バルブ（長時間露光）撮影

シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになります。カメラを三脚に取り付けて撮影してください。Mモードでのみ撮影可能です。

1. 露出モードダイヤルをMに合わせてMモードを設定します。
2. 前ダイヤルを左に回して、BULBを選びます。
3. 後ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。
4. アイピースキャップを取り付けます。→P.59
5. 必要な時間シャッターボタンを押し続けて撮影します。

- 完全に充電した電池で、約3.5時間のバルブ撮影が可能です。
- 撮影後は最長30秒間、ノイズ軽減処理が行なわれます（ノイズリダクション）。その間は「ノイズリダクション実行中」のメッセージが現れ、次の撮影はできません。　※この機能を解除するには →P.115
- 手ぶれ補正機能は、自動的にOFFになります。
- 撮像感度が高いほど、また露光時間が長いほど、画面内のノイズは目立ちやすくなります。
- カメラぶれを少なくするため、別売りのリモートコードの使用をおすすめします。→P.192

アイピースキャップの取り付け

バルブ撮影やセルフタイマー撮影など、ファインダーを覗かずにシャッターを切る場合は、ファインダーから光が入って露出に影響するのを防ぐため、アイピースキャップを取り付けてください。

1. アイピースカップを取り外します。

2. ストラップに付いているアイピースキャップを取り付けます。

測光モード

測光モード（カメラが被写体の明るさを測る方法）を以下の3つの中から選ぶことができます。

14分割ハニカムパターン測光：　画面全体を14分割して測光します。

中央重点的平均測光：　画面の中央部に重点を置きながら、全体の明るさを平均的に測光します。

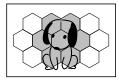
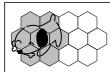
● スポット測光：　中央部のスポット測光サークル内のみで測光を行ないます。

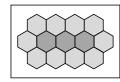
測光モードレバーを、希望の測光モードに合わせます。

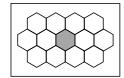
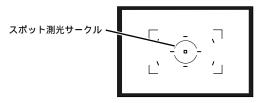
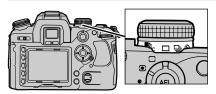
● スポット測光は、液晶モニターでは と表示されます。

14分割ハニカムパターン測光

画面全体を14分割して測光します。画面内には、13個のハニカム（ハチの巣）形状の測光素子と、その周囲との合計14個の測光素子が配置されています。これらの素子はオートフォーカスと連動しており、画面内のどこに被写体があってもカメラがその位置と明るさを的確に判断し、露出を決定します。人の目で見た感じにいちばん近く撮れる測光方式で、逆光撮影を含む一般撮影に適しています。

● 14分割ハニカムパターン測光では、シャッターボタン半押しでピントが固定されると、同時に露出（シャッター速度と絞り値）も固定されます（オートフォーカスでAFモードがS（ワンショット）またはA（自動切り替え）の場合のみ）。

中央重点的平均測光

画面の中央部に重点を置きながら、画面全体の明るさを平均的に測光します。逆光時や被写体が画面中央にない場合などは、露出補正が必要になります。→P.40

● スポット測光

画面中央部のスポット測光サークル内（中央の1個の素子）のみで測光を行ないます。コントラストの大きい被写体や、画面のある特定の部分だけを測光するのに適しています。測光したい部分が画面中央にないときは、AEロック撮影を行なってください。→P.70

ドライブモード

ドライブモードレバーで、連続撮影、セルフタイマー、ブラケット（露出ずらし）撮影、といった撮影ができます。

□	1コマ撮影：	シャッターボタンを押すごとに、1枚ずつ撮影されます。
⧉	連続撮影：	シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。→P.62
10	10秒セルフタイマー：	シャッターボタンを押してから10秒後に撮影されます。→P.63
2	2秒セルフタイマー：	シャッターボタンを押してから2秒後に撮影されます。→P.63
C	連続ブラケット撮影：	露出をずらした写真を連続して撮影します。→P.64
S	1コマブラケット撮影：	露出をずらした写真を1コマずつ撮影します。→P.64

連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、毎秒約3コマの速度で連続して撮影できます。

1. ドライブモードレバーを⧉に合わせます。
- ファインダー内に、連続して撮影できる最大コマ数が表示されます（最大9コマまで表示）。

2. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

- フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。
- AFモードがC（コンティニュアス）またはA（自動切り替え）のときは、1コマごとにピントと露出が変わります。S（ワンショット）時は、ピントと露出は1コマ目で固定されます。
- カメラの内蔵メモリ容量の関係上、連続撮影の枚数には上限があります（右表参照）。
  ※これらの値は被写体等により異なるので、あくまでも目安です。
- AFズームXiレンズ、またはAFパワーズームレンズ使用時は、連続撮影中のズームはできません。

	L:3008x2000	M:2256x1496	S:1504x1000
スタンダード	19	26	43
ファイン	15	19	30
エクストラファイン	12	14	20
RAW＋JPEG	9	9	9
RAW	9	—	—

セルフタイマー撮影

シャッターボタンを押してから、約10秒後または2秒後に撮影されます。10秒セルフタイマーは撮影者も一緒に写真に入るときに、2秒セルフタイマーはミラーが先に上がるので、シャッターボタンを押す際のカメラぶれを和らげるのに便利です。

1. カメラを三脚などに固定します。

2. ドライブモードレバーを10（10秒セルフタイマー）または2（2秒セルフタイマー）に合わせます。

3. 被写体にピントが合っているのを確認してから、シャッターボタンを押します。

セルフタイマーランプ

- 10秒セルフタイマーの場合、作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅、直前には点灯します。ランプと同様に音でもお知らせします。
- 作動中の10秒セルフタイマーを止めるには、メインスイッチをOFFにするか、ドライブモードレバーを動かしてください。2秒セルフタイマーは途中で止められません。
- カメラの後ろに明るい光源や反射物などがあり、かつファインダーを覗かずにシャッターボタンを押す場合は、ファインダーから光が入って露出に影響するのを防ぐため、ストラップに付いているアイピースキャップを付けてください。→P.59

ブラケット（露出ずらし）撮影

厳密な露出を要求される撮影では、基準露出での撮影以外に、少し露出をずらして何枚か撮影することがあります。このカメラでは、それらの撮影が自動でできます。C*ではシャッターボタンを押し続けている間連続して撮影されます（連続ブラケット）。S*では1コマずつシャッターボタンを押して撮影します（1コマブラケット）。初期設定では、0.3段露出をずらした3枚の写真が撮れます。

* C ＝ Continuous、S ＝ Singleの略

1. ドライブモードレバーを C（連続ブラケット）または S（1コマブラケット）に合わせます。

2. シャッターボタンを押して撮影します。

- C（連続）の場合は、撮影が終わるまでシャッターボタンを押し続けてください。S（1コマ）の場合は、1コマずつシャッターボタンを押してください。
- フラッシュが発光する場合は、連続・1コマの設定にかかわらず、1コマずつシャッターボタンを押して撮影してください。

- 基準となる露出値は、ブラケット1コマ目で固定されます。露出補正をかけると、基準値が移動します。
- ピント位置は、撮影のたびに変わります。連続ブラケット撮影で、AFモードがS（ワンショット）またはA（自動切り替え）で被写体が静止している場合のみ、ピント位置は固定されます。
- フラッシュが発光しない場合は、定常光*ブラケット撮影となり、シャッター速度と絞り値が変化してブラケット撮影が行なわれます。フラッシュが発光する場合は、フラッシュブラケット撮影となり、フラッシュ光が変化します。
- ブラケット段数を0.5段、枚数を5枚に変更することもできます。定常光ブラケットとフラッシュブラケットで別に設定できます。→P.112
- 定常光ブラケット撮影では、Pモードではシャッター速度と絞り値、Aモードではシャッター速度、Sモードでは絞り値が変化します。Mモードでは通常はシャッター速度が変化しますが、AEロックボタンを押しながら撮影すると絞り値が変化します。
- フラッシュブラケット撮影では、1コマずつシャッターボタンを押して撮影してください。フラッシュの発光量が変化してブラケットを行ないます。

● 撮影は、0（適正）、−、＋の順に行なわれます。変更もできます。→P.112
● 1コマブラケットを途中で解除するには、メインスイッチをOFFにするか、ドライブモードレバーを動かしてください。

* 定常光 ＝ 自然光や電球・蛍光灯など、フラッシュ光以外の総称。フラッシュ光が一瞬だけ光るのに対し、常に一定して存在する光なのでこう呼ばれる。

ブラケット撮影時の測光インジケーター

ブラケット撮影にすると、液晶モニターの測光インジケーター表示が変わります。

定常光ブラケット（上段に表示）
段数0.3段、枚数3枚

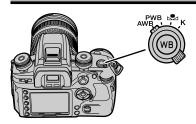
定常光ブラケット（上段に表示）
段数0.3段、枚数3枚
露出補正＋1.0段

フラッシュブラケット（下段に表示）
段数0.5段、枚数5枚
調光補正−1.0段

ファインダー内表示

ファインダー内表示

● 定常光ブラケットの測光インジケーターは、ファインダー内にも表示されます。フラッシュブラケットは表示されません。
● ブラケット撮影を開始すると、撮影済みの指標が順に消えて行きます。
● 1コマブラケットの場合、ファインダー内に、定常光ブラケットの場合は [br 1]、フラッシュブラケットの場合は [Fbr 1] の表示が現れます。撮影を開始すると、[br 2] [br 3] などと次のコマが何コマ目かが表示されます。

ホワイトバランス

光源によって被写体の色は変化します。特に白いものは、光源によって青っぽくなったり黄色っぽくなったりします。これが白くなるように調整するのがホワイトバランスです。このカメラでは、4種類のホワイトバランスの設定方法が可能です。

AWB*	**オートホワイトバランス：**	**ホワイトバランスは自動的に調整されます。**
PWB*	**プリセットホワイトバランス：**	**被写体を照射している光源を選ぶことができます。→P.66**
	カスタムホワイトバランス：	**白く再現したい被写体を選んでカメラに記憶させます。→P.68**
K	**色温度設定：**	**色温度を選んで撮影します。→P.69**

* AWB ＝ Auto White Balance、PWB ＝ Preset White Balance の略

プリセットホワイトバランス

被写体を照射している光源を選ぶことができます。オートで思うような色が出ないときにお使いください。

1. ホワイトバランスモードレバーをPWBに合わせます。

2. ホワイトバランス設定ボタンを押します。

3. 前ダイヤルまたは十字キー左右で、光源を選びます。

- 昼光（晴れた明るい屋外）
- 日陰（晴れた明るい屋外の日陰）
- 曇天（曇った屋外）
- 白熱灯（タングステン光）
- 蛍光灯
- フラッシュ光

4. 必要ならば、後ダイヤルまたは十字キー上下で微調整を行ないます。

- ＋側にするほど色温度が上がり、被写体が赤っぽく写ります。－側にするほど色温度が下がり、青白く写ります。

- 蛍光灯設定時に上記の操作を行なった場合は、微調整でなく、以下の通り蛍光灯の種類を選ぶことになります。＋側ほど赤っぽく、－側ほど青白く写ります。

－2	電球色蛍光灯	＋2	昼白色蛍光灯（三波長）
－1	温白色蛍光灯（三波長）	＋3	昼光色蛍光灯（三波長）
0	白色蛍光灯	＋4	昼光色蛍光灯
＋1	昼白色蛍光灯		

5. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

- 設定時には、光源や数値が、ファインダー内にも以下の通り表示されます。

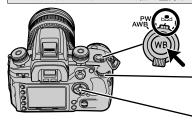
  昼光 ＝ dAy (daylight)　　白熱灯 ＝ tung (tungsten)
  日陰 ＝ SHAd (shade)　　蛍光灯 ＝ FLor (fluorescent)
  曇天 ＝ CLud (cloudy)　　フラッシュ光 ＝ FLSH (flash)

- 水銀灯やナトリウムランプの場合、光源の特性上それらだけでは正確なホワイトバランスは得られません。フラッシュの使用をおすすめします。

カスタムホワイトバランス

複数の種類の光源で照明されている場合などで、より正確に白さを表現したいときは、カスタムホワイトバランスの使用をおすすめします。カスタム1～3の3つまでをカメラに登録させせることができます。

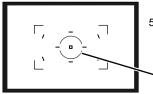
● P.76の登録機能とは関係ありません。

カスタムホワイトバランス値を登録する

1. ホワイトバランスモードレバーを に合わせます。

2. ホワイトバランス設定ボタンを押します。

3. 前または後ダイヤルでSetを選びます。

4. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

● SETが赤く表示されます。

5. 白く写したいものがスポット測光サークルを覆うようにカメラを構え、シャッターボタンを押します。

● ピントを合わせる必要はありません。

スポット測光サークル

登録先を選択

選択　完了

6. 前後ダイヤルまたは十字キー左右で、登録先の番号（1～3）を選びます。

● を選ぶと登録されません。

7. 十字キー中央の実行ボタンを押して登録します。

● 登録したカスタムホワイトバランス値が設定された状態で、撮影画面に戻ります。

● この操作で登録されたカスタムホワイトバランス値は、次に同じ操作で同じ番号に別の値が登録されるまで有効です（メインスイッチをOFFにしても消えません）。
● シャッターボタンを押すときにフラッシュを発光させると、フラッシュ光でカスタムホワイトバランスが登録されます。実際の撮影でもフラッシュを発光させて撮影してください。
●「カスタムWB設定エラー」のメッセージが表示されたときは、登録しようとしている値が想定外であることを表します（近距離でフラッシュを発光させた場合や、鮮やかな色の被写体に向けた場合など）。登録する場合は登録先の番号を、キャンセルする場合は⮌を選んで実行ボタンを押してください。登録すると、液晶モニターの表示が黄色になります。撮影はできますが、より正確なホワイトバランスを得るには、再度設定し直すことをおすすめします。

登録したカスタムホワイトバランス値を呼び出す

1. ホワイトバランスモードレバーをに合わせます。

2. ホワイトバランス設定ボタンを押します。

3. 前後ダイヤルまたは十字キー左右で、呼び出したい番号を選びます。

4. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

色温度設定

ホワイトバランス値を、色温度で指定することができます。
● カラーメーターで測定した色温度を設定する場合は、事前にテスト撮影を行なってください。

1. ホワイトバランスモードレバーをKに合わせます。
K ＝ ケルビン（色温度を表す単位）

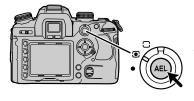
2. ホワイトバランス設定ボタンを押します。

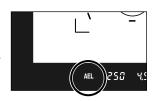
3. 前後ダイヤルまたは十字キーで、希望の色温度を選びます。
● 前ダイヤルまたは十字キー左右で1000Kずつ、後ダイヤルまたは十字キー上下で100Kずつ数値が変わります。
● 2500K〜9900Kの範囲から選ぶことができます。

4. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

露出を固定する（AEロック撮影）

AE*ロックボタンを押すと、その時の露出値（シャッター速度と絞り値）が固定されます。測光したいものとピントを合わせたいものが異なる場合や、露出を一定に保ったまま連続撮影したい場合などに使用します。

*AE = Auto exposure（自動露出）の略
AEL = Auto exposure lockの略

1. 測光したい状態にカメラを構えます。
- ピントを合わせておいてください（固定させる必要はありません）。

2. AEロックボタンを押します。
- ファインダーと液晶モニターの**AEL**が点灯し、露出値がロック（固定）されていることをお知らせします。

3. AEロックボタンを押したまま、必要なら構図を変え、シャッターボタンを押して撮影します。

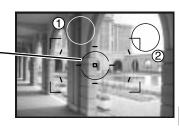
- 撮影後もAEロックボタンを押し続けていると、同じ露出で連続して撮影できます。指を離すと解除されます。
- P／Aモードでのフラッシュ発光時は、AEロックと同時にスローシンクロ撮影になります。→P.73
- AEロックボタンから指を離しても露出値が固定されたままになるように（押し続けなくてもいいように）することができます。→P.134
- どの測光モードを選択していても、AEロックボタンを押すと一時的にスポット測光で露出が固定される（スポットAEロック）ようにすることもできます。→P.134

AEロックボタンを押したときの測光インジケーター

AEロックボタンを押して露出を固定すると、固定された露出値を基準値（0）として、構図を変えた後のスポット測光サークル内の測光値が、測光インジケーターに表示されます。画面内の複数箇所の明るさの違いを知ることができます。

- 露出補正ダイヤルが1/3Evステップになっているときは測光インジケーターも1/3段ごとに、1/2Evステップのときは1/2段ごとの表示になります。→P.40
- 基準値に対して±2段を越える場合は、まず◁▷が点灯、次に点滅します。

例：右の場面で構図を決めてAEロックボタンを押した場合

スポット測光サークル

14分割ハニカムパターン測光・中央重点的平均測光の場合

AEロックボタンを押すと、インジケーターは以下の通りになります。

スポット測光サークル内の測光値

固定された露出値（それぞれの測光モードによる）

−2••1••0••1••2+

AEロックボタンを押したままスポット測光サークルを①に合わせると、①の測光値が表示されます。固定された露出値（0）はそのままです。

①の測光値（構図を変えると連動して変化）

AEロックボタンを押したまま②に合わせると、②の測光値が表示されます。ここでは②が白くとんでしまうことが分かります。

②の測光値

固定された露出値

−2••1••0••1••2+

スポット測光の場合

AEロックボタンを押すと、インジケーターは以下の通りになります。

固定された露出値（＝その時のスポット測光サークル内の測光値）

−2••1••0••1••2+

AEロックボタンを押したままスポット測光サークルを①に合わせると、①の測光値が表示されます。固定された露出値（0）はそのままです。

AEロックボタンを押したまま②に合わせると、②の測光値が表示されます。ここでは②が白くとんでしまうことが分かります。

撮像感度

撮影時の感度を選択することができます。感度はISO（写真フィルムの感度の単位）の数値に換算して表されます。オートに設定すると、明るさや状況（フラッシュ発光の有無など）に応じて自動的に感度が調整されます。画質を重視する場合は、ISO 100などに感度を下げてください。暗い場所での撮影やフラッシュ光の到達距離を伸ばしたいときには、感度を上げると有効ですが、画像が粗くなり、ノイズが発生しやすくなります。

1. ISO（撮像感度）ボタンを押します。

2. 前後ダイヤルまたは十字キー左右で、希望の感度を選びます。

- 以下の範囲から選ぶことができます。
  オート（AUTO）、ISO 100、200、400、800、1600

3. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

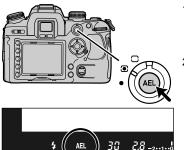
- オートの場合、撮像感度はISO 100～400の範囲で自動的に設定されます。Mモード時にはISO 100で固定されます。
- カスタムメニューで ISO 3200を選ぶこともできます。→P.144

内蔵フラッシュによる調光距離（適正露出の得られる範囲）は、絞り値と撮像感度によって異なります。以下を目安に撮影距離を決めてください。

絞り値	撮像感度					
	ISO 100	ISO 200	ISO 400	ISO 800	ISO 1600	ISO 3200
F2.8	1～4.3m	1～6m	1.4～8.6m	2～12m	2.8～17m	4～24m
F4	1～3m	1～4.3m	1～6m	1.4～8.6m	2～12m	2.8～17m
F5.6	1～2.1m	1～3m	1～4.3m	1～6m	1.4～8.6m	2～12m

スローシンクロ撮影（夜景を背景にしたフラッシュ撮影）

夜景を背景にして記念撮影する場合、通常のフラッシュ撮影では手前の人物はきれいに写し出されますが、フラッシュの届かない背景は黒くつぶれてしまいます。このような場合、スローシンクロ撮影（シャッター速度の遅いフラッシュ撮影）をすると、人物も背景もきれいに撮ることができます。

スローシンクロ撮影

通常のフラッシュ撮影

1. 内蔵フラッシュを上げます（またはプログラムフラッシュをONにします）。

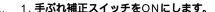
2. AEロックボタンを押しながら撮影します。

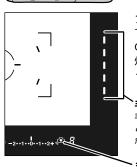
● 液晶モニターとファインダー内の**AEL**が点灯し、露出値がロック（固定）されていることをお知らせします。

● シャッター速度が遅くなりますので、三脚の使用をおすすめします。
● フラッシュが発光しないときにAEロックボタンを押しながら撮影すると、露出が固定されます（AEロック撮影、P.70）。
● S・Mモードでは、AEロックボタンによるスローシンクロ撮影はできません。
● AEロックボタンから指を離してもスローシンクロ撮影のままになるように（押し続けなくてもいいように）することもできます。→P.134

手ぶれ補正

カメラを手持ちで撮影する場合は、この機能により手ぶれを減少させることができます。フラッシュを発光させずに撮影するときや、望遠側で撮影するときに特に威力を発揮します。

1. 手ぶれ補正スイッチをONにします。

2. シャッターボタンを半押しします。

3. シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

ファインダー内右側の手ぶれインジケーターはカメラの揺れの大きさを、右下の手ぶれ警告表示 はシャッター速度や焦点距離、手ぶれ補正のON/OFFから判断した手ぶれ写真の可能性を表します。手ぶれ警告表示が点灯し、インジケーターの点灯数が多いほど、手ぶれの可能性があります。しっかりカメラを構えて撮影してください。

手ぶれインジケーター

手ぶれ補正スイッチがONの時には必ず点灯します。点灯するランプの数が多いほど、カメラの揺れが大きいことを表します（最大5つ）。手ぶれ補正がOFF時には点灯しません。

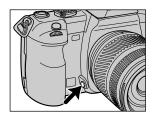
手ぶれ警告表示

手ぶれ補正スイッチがON/OFFにかかわらず点灯します。点灯すれば手ぶれの恐れがあるので、手ぶれ補正スイッチをONにするか、フラッシュまたは三脚の使用をおすすめします。

- メインスイッチをONにした直後やカメラを構えた直後、シャッターボタンを半押しせずに一気に押し込んだ時は、手ぶれ補正の効果が得られにくいことがあります。手ぶれインジケーターの点灯数が減るのを待ってから、ゆっくりシャッターボタンを押し込んでください。
- マクロ撮影など近距離撮影の場合は、手ぶれ補正機能でもぶれが補正できないことがあります。手ぶれ補正をOFFにして三脚を使用されることをおすすめします。
- このカメラの手ぶれ補正機能は、シャッター速度で約2〜3段分の補正効果を発揮します。被写体を追いながら流し撮り撮影を行なう場合や、夜景撮影などシャッター速度が1/4秒以上の場合は、手ぶれ補正の効果が得られにくいことがあります。可能であれば手ぶれ補正をOFFにして、三脚をご使用ください。

● 以下の場合には、手ぶれ補正機能が十分に作動しないため、手ぶれ補正をOFFにすることをおすすめします。
・三脚使用時
・マクロ切り替えレバー付きレンズのマクロ領域での撮影
・フォーカスレンジリミッター付きレンズ（SSMレンズと（D）の名称の付くマクロレンズを除く）で、最近接撮影距離からリミッター設定位置までの間で撮影する場合（リミッターを外して使用される場合は問題ありません。）
・AFマクロズーム3X-1X F1.7-2.8使用時
● 他社製レンズと組み合わせた場合、手ぶれ補正機能の性能については保証いたしませんのでご了承願います。
● 手ぶれインジケーターの表示を消すこともできます。→P.142

プレビュー（絞り込み）

ファインダーには絞りが一番開いた状態の像が見えています。絞りが異なると被写体のぼけ具合いも変わるため、ファインダーで見えるぼけ具合いと実際の写真のぼけ具合いとは異なります。プレビュー機能を使うと、実際の撮影のときの絞りまで絞り込まれるので、撮影前におおよその被写体のぼけ具合いを確認することができます。
※絞りとぼけ具合いについて **→Aモード、P.54**

ピントを合わせた後、プレビュー（絞り込み）ボタンを押します。

● 押している間、表示されている絞り値まで絞りが絞り込まれます。
● 絞りが絞り込まれるため、ファインダー内の画像は暗くなります。
● プレビュー中に絞り値を変更することもできます。

● ピントを固定したまま（＝ファインダー内に ● が点灯した状態で）プレビューボタンを押すと、そのままシャッターボタンを押し込んで撮影することができます。
● フォーカスホールドボタン付きレンズ使用時には、フォーカスホールドボタンでプレビューを行なうようにすることができます。→P.132

登録

最もよく使うモードや数値設定等の組み合わせを、3通りまでカメラに登録して、必要に応じて呼び出すことができます。同条件下での撮影を頻繁に行なうときに便利です。
登録機能を使うと、以下の設定すべてが自動的にカメラに登録されます。一部だけの登録はできません。また、以下に記載されている設定以外の登録もできません。

登録できる項目	ページ	補足
露出補正	40	1/3Evまたは1/2Evステップ、どちらの値でも登録できます。
調光補正	41	—
フォーカスフレーム	44, 45	ローカルフォーカスフレームの位置も合わせて登録されます。
フォーカスモード	47	—
露出モード	52	Aモードでは絞り値が、Sモードではシャッター速度が、Mモードでは絞り値とシャッター速度が同時に登録されます。プログラムシフトとマニュアルシフトは登録できません。
測光モード	60	—
ドライブモード	62	ブラケット撮影の場合、定常光ブラケット設定・フラッシュブラケット設定の段数と枚数がそれぞれ登録されます。
ホワイトバランス	66	微調整を含むプリセットホワイトバランス値と色温度設定値も登録されます。カスタムホワイトバランスは、1～3の番号のみ登録されます（設定値は登録されません）。
撮像感度	72	ゾーン切り替えを含むISOボタンの機能、ISO 3200を含むISO設定範囲も同時に登録されます。
画像サイズ	97	—
画質	98	—
カラーモード	100	—
画像パラメーター	102	—
フラッシュモード	104	フラッシュのON/OFFは登録されません。
調光モード	110	内蔵マニュアル発光の発光量も同時に登録されます。
フォーカス／レリーズ優先	132	—
AF-Aの機能	136	DMFそのものは登録できません。

登録1～3

このカメラでは3通りまでの登録が可能です。例えば、1には人物を撮るためのポートレート用の登録、2にはスポーツシーン用の登録、などと使い分けることができます。

初期設定では、1～3いずれも未登録（フルオート*が登録されている状態）になっています。登録機能を使う場合は、以下の方法で任意の設定を登録してください。

- 1～3のすべてに登録する必要はありません。登録機能を使わない場合、１つも登録しなくても差し支えありません。
- 登録された内容は、カメラの電源を切っても電池を抜いても保持されています。設定値リセット（P.156）で未登録状態（フルオート*）に戻ります。

* 撮像感度のみ、ISO AUTO でなく ISO 100

新しい設定を登録する

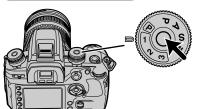
MSET

1. 前ページの項目すべてを登録したい状態に設定します。

2. 登録設定ボタンを押します。

3. 前ダイヤル、後ダイヤル、十字キー左右のいずれかで、登録先の番号を選びます。
- 液晶モニターには、これから登録しようとしている登録内容一覧が表示されます。
- メニューボタンを押すと、登録されずに元の撮影モードに戻ります。

4. 十字キー中央の実行ボタンを押します。
- 設定が登録されます。

登録

登録を呼び出す

露出モードダイヤルロック解除ボタンを押しながら、露出モードダイヤルを呼び出したい番号（1〜3）に合わせます。

● 呼び出された設定が表示されます。

登録1、の意味

登録を呼び出すと、カメラ上のダイヤルやレバーの位置と、実際に撮影に使われる設定とが一致しなくなります。レバーの位置ではなく、液晶モニターの情報を元に撮影を行なってください。

登録を呼び出した後、そこからさらに設定の変更を加えることができます。

● 変更を加えた後、前ページの要領で再度それを登録することもできます。改めて登録しない限り、新たに加えた変更が登録されることはありません。

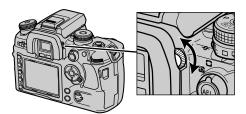
● 登録呼び出し位置（1〜3）で変更を加えた場合、P/A/S/Mモードに戻しても、加えた変更分はそのまま残ります。

AF補助光

被写体が暗いときに内蔵フラッシュを上げていると、シャッターボタン半押し等オートフォーカスでピントを合わせたときに、フラッシュが発光することがあります。これは、オートフォーカスでピントを合わせやすくするためのAF補助光です。

- 補助光の届く範囲は、約1〜5mです（当社試験条件による）。
- フォーカスモードをコンティニュアスAF（C）にしているときや、被写体が動いているとき（ファインダー内にフォーカス表示(◉)が点灯しているとき）は、補助光は発光しません。
- レンズの焦点距離が300㎜以上のときは、AF補助光は発光しないことがあります。AFマクロズーム3X-1X使用時にも、AF補助光は発光しません。
- プログラムフラッシュを取り付けているときは、プログラムフラッシュのAF補助光が発光します。
- AF補助光の発光をなくすこともできます。→P.140

視度調整

ファインダーの像がはっきりと見えないときは、視度を調整して見やすくすることができます。

ファインダーをのぞいて、フォーカスフレームがはっきり見えるように、視度調整ダイヤルを回します。

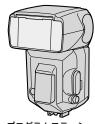
- アイピースカップを外すと回す方向が分かります（P.193）。遠視の場合は＋方向へ、近視の場合は−方向へ回してください。

- カメラをできるだけ明るいところに向けると、視度が合わせやすくなります。
- 別売りの視度調整アタッチメント1000を併用することもできます。カメラ本体の視度調整機能を用いてもはっきりと見えない場合にお使いください。近視用4種類、遠視用5種類があります。

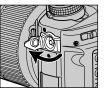
ハイスピードシンクロ（HSS）撮影

ハイスピードシンクロ撮影には、別売りのプログラムフラッシュ5600HS（D）または3600HS（D）が必要です。

プログラムフラッシュ
5600HS（D）

プログラムフラッシュ5600HS（D）または3600HS（D）をこのカメラに取り付けて、フラッシュの液晶表示部にHSSが表示されている状態にすると、フラッシュ同調速度*の制限がなくなり、カメラの持つシャッター速度全域（30秒〜1/4000秒）でフラッシュ撮影ができるようになります。その結果、絞り値の選択幅が広がりますので、フラッシュを使った撮影でも絞りを開けて背景をぼかし、人物が浮き上がって見えるポートレートらしい写真を撮ることができます。
またAモードやMモードで開放側の絞り値でフラッシュ撮影をするとき、背景が非常に明るくて通常は露出オーバーとなるようなシーンでも、高速シャッターを使って適正露出にすることができます。

*同調速度 ＝ このカメラでは、手ぶれ補正ON時で1/125秒、手ぶれ補正OFF時で1/160秒。ハイスピードシンクロ撮影以外のフラッシュ撮影では、これより高速のシャッター速度にはならない。

- ハイスピードシンクロ撮影となるとき（シャッター速度が上記の同調速度より高速になる場合）は、ファインダー内に ***H*** が点灯します。
- ハイスピードシンクロ撮影となるときは、通常のフラッシュ撮影よりも調光距離の範囲が短くなります。撮影前に、被写体がフラッシュの表示部に表示されている距離の範囲内にあるかどうか確認してください。
- 2秒セルフタイマー・後幕シンクロ選択時には、ハイスピードシンクロ撮影にはなりません。
- フラッシュメーターやカラーメーターを使用する場合は、適正露出が得られないためハイスピードシンクロ撮影はできません。ハイスピードシンクロを解除する（フラッシュの液晶表示部にHSSが表示されていない状態にする）か、同調速度より低速側のシャッター速度を選んでください。

シンクロターミナル

このカメラにはシンクロターミナルが付いているので、シンクロコード付きフラッシュを使った撮影が可能です。シンクロターミナルのカバーを開け、コードを差し込んでください。

- 露出モードはMモードで、シャッター速度は1/125秒（手ぶれ補正ON時）／1/160秒（手ぶれ補正OFF時）またはフラッシュ側の推奨する値のどちらか遅い方、またはそれより低速側に設定してください。
- シンクロ電圧は400V以下でご使用ください。
- シンクロコードをシンクロターミナルに接続するときは、コードと接続したフラッシュの電源をOFFにしてください。ONのままだと、コードを接続した瞬間にフラッシュが発光することがあります。
- フラッシュは、常にフル発光になります。フラッシュ調光補正（P.41）はできません。ブラケット撮影は、AEロックボタンを押しながら撮影（絞り値が変化する、P.64）すれば可能です。
- オートホワイトバランスはおすすめできません。より正確なホワイトバランスを得るには、カスタムホワイトバランスをお使いください。
- フラッシュのシンクロ端子の極性が逆のタイプでもご使用になれます。

各機能の説明（再生）

この章では、画像再生中の機能について説明しています。必要に応じてお読みください。

撮影した画像を再生するには、再生ボタンを押します。画像はカメラ背面の液晶モニターに表示されます。

撮影に戻るには、もう一度再生ボタンを押してください。

● シャッターボタン半押し等でも戻ります。

1コマ再生

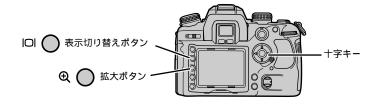
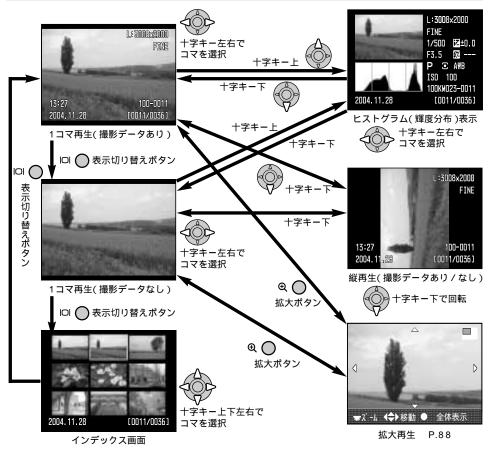
再生モードにすると、撮影した画像が液晶モニターに表示されます。

前後ダイヤルまたは十字キーの左右で、見たい画像を選びます。

古い画像　　新しい画像

- 十字キーを押し続けると、画像が早送りされます。
- 最新画像を表示中に、ダイヤルを右に回すか十字キーの右を押すと、最も古い画像に戻ります。逆も同様です。
- 再生中でも、シャッターボタンを半押しすればすぐに撮影モードに戻り、撮影が可能です。

再生画面の切り替え

再生中は、表示切り替えボタンや十字キーなどにより、次ページの通り画面の切り替えができます。

次ページへ続く

※個々の表示内容について →P.17

インデックス画面

9コマ分を一度に液晶モニターに表示します。十字キーの上下左右でコマの移動ができます。見たい画像をすばやく探したいときに便利です。

● 一度に再生されるコマ数を、4コマまたは16コマにすることができます。タブブラウズ（フォルダごとの表示）も可能です。→P.126

ヒストグラム（輝度分布）表示

画像のヒストグラム（輝度分布）と撮影データが表示されます。1コマ再生時に、十字キーの上側を押すとヒストグラム表示になります。下側を押すと元に戻ります。

● 左右キーを押すとコマの選択ができます。

画像に白とびまたは黒つぶれの箇所が存在する場合、ヒストグラム画面の画像の該当箇所が点滅します（白とび黒つぶれ警告）。

※ヒストグラムについて →P.86

ヒストグラムについて

ヒストグラムとは輝度分布のことで、どの明るさの画素がどれだけ存在するかを表します。このカメラのヒストグラム表示は、横軸が明るさ（左端が黒、右端が白）、縦軸が画素数を表しています。露出補正をかけると、ヒストグラムもそれに応じて変化します。下はその一例です。

※画素について →P.97

＋側に露出補正をかける

＋側に露出補正をかけて撮影すると、画面全体が明るくなるので、ヒストグラムが全体に明るい方（右側）にずれます。－側だと逆にずれます。

ヒストグラムの左右両端には、黒または白100%のデータ*しか存在しません。よって後でパソコンに取り込んで補正しても、つぶれた部分の再現は不可能だということになります。ヒストグラムを確認することにより、このような画像の状態を前もって知ることができます。

*正確にはカラー画像の場合RGBで表されるので、白はR255、G255、B255、黒はR0、G0、B0

縦再生

1コマ再生時に十字キーの下を押すと、画像が回転します。カメラ縦位置で撮った画像を見るときに便利です。

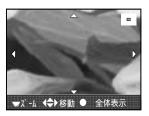
- パソコンに取り込んだ画像は、使用するソフトウェアによっては回転していない状態で表示されることがあります。付属のDiMAGE Viewerでは、正しく回転された状態で表示されます。
- SDメモリーカードとSD-CFアダプターを使用している場合、SDメモリーカードが書き込み禁止になっていると、縦再生はできません。

拡大再生

画像再生中に、画像の一部を拡大することができます。

1. 1コマ再生中に拡大ボタンを押します。

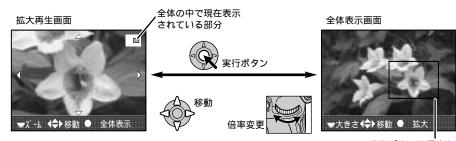
● 画面中央部分が拡大されます。

● RAW画像は拡大再生できません。

2. 十字キー上下左右と前後ダイヤルで、拡大したい場所や大きさなどを選びます。

● 十字キー上下左右で、拡大する場所を選ぶことができます。

● 後ダイヤルを回すと、拡大倍率が変わります。

● 前ダイヤルを回すと、コマの選択ができます。

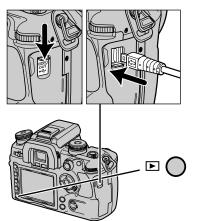
● 十字キー中央の実行ボタンを押すと、拡大再生画面と全体表示画面が交互に表示されます。

3. 拡大ボタンを押すと、元の1コマ再生に戻ります。

● 拡大倍率範囲は右表の通りです（倍率は表示されません）。

● 表示切り替えボタン ◯ を押すと、拡大再生中の画面内の表示を消すことができます。

画像サイズ	拡大倍率範囲
L: 3008×2000	約1.1～4.7倍
M: 2256×1496	約1.1～3.5倍
S: 1504×1000	約1.1～2.4倍

画像をテレビで見る

付属のビデオケーブルVC-500でカメラとテレビを接続して、画像をテレビに映して見ることができます。

1. テレビとカメラの電源を切ります。

2. ビデオケーブルの黄色のプラグを、テレビのビデオ入力端子（通常は黄色）に差し込みます。

3. ビデオケーブルの反対側のコネクタを、カメラのビデオ出力端子に差し込みます。

- カメラのビデオ出力端子のカバーを開け、コネクタの矢印をカメラの背面側にして、奥まで確実に差し込んでください。

4. テレビの電源を入れ、テレビの［入力切り替え］などで、ビデオ入力端子からの入力に切り替えます。

- 詳しくはお使いのテレビの使用説明書をご覧ください。

5. カメラのメインスイッチをONにして、再生ボタンを押します。

- 上記の操作で、カメラの液晶モニターに現れる画像が、そのままテレビに映ります。通常の再生モードと同様に表示の切り替え等行なうことができます。
- カメラ背面の液晶モニターは点灯しません。
- テレビに映る画像はパソコンの画像と比べると、システムの違いにより画質が多少劣化します。
- 上記の操作で万一画像がテレビに映らない場合は、ビデオ出力形式を確認してください。→P.147